

令和4年度高岡市地域公共交通活性化推進協議会 議事要旨

日 時：令和5年3月27日（月）14：00～15：30

場 所：御旅屋セリオ 5階ホール

委 員：19名中14名出席

議事要旨：以下のとおり

【議事に先立ち副会長を指名】

協議会会長より、中山委員（金沢大学 教授）を副会長に指名

⇒ 中山委員より承諾、副会長に就任いただく。

【議題】（1）地域公共交通計画策定の流れ及び今年度の取組み経過について

資料1に基づき事務局説明

【議題】（2）移動実態の把握に関する調査（市民アンケート、ビッグデータ）結果の概要について

資料2-1、資料2-2、参考資料1に基づき事務局説明

【議題】（3）質疑応答・意見交換

○富山県交通政策局交通戦略企画課 有田課長

- ・アンケート調査における公共交通の満足度について、利用経験の「有り」、「無し」で区分されているが、「利用経験が無い」というのは、どのような定義での設定になるのか。

⇒ 事務局回答

過去に1度も公共交通を利用したことが無い方について、「利用経験無し」として回答いただいたものである。

- ・満足度については、自宅から駅等拠点施設への行きやすさについての評価が低くなっており、住宅施設の誘導などまちづくりの取組みの重要性が伺えると思うが、計画策定にあたって、立地適正化計画や都市マスタープランとどのように整合を図るのか。

⇒ 事務局回答

市においては総合計画においてコンパクトアンドネットワークの取り組みを進めており、立地適正化計画においても、万葉線沿線エリア等を居住誘導区域に位置付け、10年から20年のスパンでの緩やかな誘導を進めており、このような取り組みも踏まえて、整合を図っていきたいと考えている。

○富山県高岡土木センター 石井次長

- ・アンケート調査については、現状把握のみを目的として実施したものか。将来的な地域交通利用を誘導するというのであれば、具体的な開発計画を示すなどのアンケート手法もあると思うが、本調査は、そういった手法となっているのか。

⇒ 事務局回答

今回の調査では、具体的な開発計画を示すなどの手法は取っていない。一方で、アンケートの調査項目として、公共交通サービスの維持拡大に対する財政負担の考えや、交通利用拡大のために必要な取り組み等についても調査を行い、公共交通が中心となるが、財政負担の必要性や協働の意識の広まりなどを確認したところである。

○高岡警察署 中山地域交通官

- ・アンケート調査について、免許返納の意識はあるものの、できる限り運転をしたいという方が一定程度おられる状況にあるが、この点についてはどのように評価されているか。

⇒ 事務局回答

地区別のアンケート結果では、市内において交通手段が充実しているエリアほど、免許返納の意識が高く、一方で自動車移動が中心となる郊外部においては、運転を継続したいという意見が多い、こういった傾向が、アンケートにおいても表れている点について特に注視しているところである。

○JR 西日本金沢支社 鹿野室長

- ・アンケート調査では、公共交通の利用が少ないという実態が表れたものと感じている。人口減少やコロナの影響など、地域交通を取り巻く環境が厳しいことが改めて浮き彫りになった。現在、公共交通を利用されていない方々に対し、観光利用も含めて、ターゲットをどこに絞り、利用拡大を図るかが重要になる。
- ・本日発表させていただいたが、3月の北陸新幹線の利用がコロナ前と比較して96%まで回復したところ。今後を見据えて、まちづくりなども含めて行政、交通事業者、それぞれにどのような役割を持たせるのか、こういった視点も含めて、地域交通に対し、行政の積極的な関与をお願いしたい。

○あいの風鉄道 助野蘇武企画部長

- ・今回は、現状と課題を共有いただき、今後、計画の方向性を議論していくことになるものと理解している。アンケート調査においては朝夕のラッシュ時における運行ダイヤの利便性向上に対する意見が多かった。便利で快適な移動手段として選ばれるよう、当社としても様々な取り組みを進めているところ。駅における案内システムの展開やバリアフリー化にも取り組んでいる。駅のバリアフリー化については今年度、滑川でエレベーターの供用を開始したほか、来年度には高岡でも福岡駅でエレベーター設置工事に着手することとしている。また、免許返納者に対する切符の割引支援に取り組むほか、利便性の高い運行ダイヤについても検討を進めている。特に運行ダイヤについては分かりやすさを念頭にパターンダイヤの検討も始めているところ。県においても、利便性の向上を掲げた交通戦略の策定に取り組んでおられるので、県の戦略との整合も図りながら、計画策定を進めていただきたい。

○万葉線 楠専務理事

- ・富山県においては、自動車保有率が全国2位という状況であり、自動車が移動の中心となっている。このような状況において、万葉線については地元の利用を中心として、幅広くまちづくりの観点から観光面を含めた役割を担っていると考えている。当社においては、定期利用については通学、通勤ともに減少傾向にある。公共交通利用については、交通だけを単独で考えるのではなく、居住地域や目的地など、まちづくりと連動して考えていく必要がある。
- ・現状、交通事業者として行政から支援により事業運営をしているが、支援という考えではなく行政として必要な経費として、積極的に関わっていただき、公共交通の利用拡大に結びつけることができると考えている。
- ・利用者の安全・安心を守るとともに、様々な交通が連携して、利用者が行きたい所に行くことができる運行を目指していければよいと思う。

○加越能バス 清水自動車部長

- ・アンケート調査においては、鉄道がベースとなる部分があると思うが、バスについては路線運行の見直しなど対応が可能な部分も多く、観光施策との連動なども含めて、目を向けていただくとありがたい。また、ビッグデータ分析においても、鉄道が中心となる部分があると思うが、今後の計画策定の中では、バスについての分析も加えていただきたい。

⇒ 事務局回答

今回のビッグデータ分析については、GPS データを活用していることから、バス移動と自動車移動の判断が難しいという点もあり、鉄道のデータ分析を行ったもの。今後は、今回の分析と併せて地区別のカルテ分析を行い、資料を委員の皆様にもお示ししたいと考えており、その中で、バスに係る分析についても実施してまいりたい。

○国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局 山倉首席運輸企画専門官

- ・地域公共交通計画に係る制度を所管する立場として、計画策定に向けた取り組みを進めていただいていることは大変ありがたい。今後は計画策定を進める中で、目標設定や実施事業を決めていくことになると思う。
- ・高岡市において取り組みを進めておられる市民協働型の取り組みについても事業として掲げられることになると思う。国においても、地域との連携や協働に対する支援制度を展開しているところであり、積極的に取り組みを盛り込んでいただきたい。

○国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所 高田調査第二課長

- ・当方については、道路担当者という立場で本協議会に参加している。高岡管内においても道路渋滞がまだまだ街中で確認されており、環状道路の整備を含めて解消に向けて取り組んでいるところ。
- ・一方で、街中においては、道路空間を活用する事例が全国にも多くある。中心市街地の活性化やBRT事業など、整備局において活用できる支援もある。今後、計画策定に向けた協議においては、道路政策的に活用できる支援や他地域の事例なども含めて意見をさせていただければと考えている。

○高岡市連合自治会 藤田副会長

- ・計画の策定にあたっては、市としてどのような方向に向かうのか、現在の総合交通戦略も踏まえて、方向性を明確に提示いただくとありがたい。公共交通の持続に向けて今回の調査に取り組まれたことについては、利用者として敬意を表したいと考えている。一方で、公共交通については、地域によって受ける恩恵に差がある部分もあると思うので、今回のような全体分析に加えて、地区ごとの分析もお願いしたい。
- ・また、市において取り組みを進めておられる市民協働型地域交通システムについては、全ての地域において積極的に受け止めて取り組んでいるわけではなく、地域によっては必要に迫られて取り組んでいるケースもあると思う。どのようなケースにおいても地域の負担は大きいので、継続的な市の支援をお願いしたい。この際の支援については、100%全てを市にお願いするというものではなく、地域と市と交通事業者の負担を明確にさせていただくことが重要と考えている。地域との対話を継続しながら、引き続き取り組みを進めていただきたい。

○高岡商工会議所 西田専務理事

- ・公共交通の利用促進については、カーボンニュートラルやSDGsの取り組みと連動している面も多く、大きな流れとして認識する必要があると感じている。また、まちづくりとも大きく関わりがあると考えており、市が進めるコンパクトアンドネットワークのまちづくりに合わせて、取り組みを進めるべきだと思う。
- ・アンケート調査では、利用率が8.5%と低い状況にあるが、ただ低い現状を捉えるだけでなく、なぜ低いのか、その要因といったものも今後分析できれば良いのではないかと考えている。私自身、通勤では、あいの風鉄道と万葉線を利用しているが、自宅からあいの風鉄道の駅まで1km程度の距離である。これよりも自宅から駅までの距離が長くなると、やはり利用が難しくなるという面もあるかもしれない。最寄りの駅から自宅までをどのようにつなぐのか、バスなのか他のモードなのか、こういった部分を解消することで、利用促進につながるのではと考えている。
- ・また、コロナによる移動制限が緩和される中で、今後はインバウンド向け観光というのが重要になってくると思う。交通も大きな観光資源として有効に活用を進めていけば良いのではないかと。

○高岡市観光協会 原野専務理事

- ・観光協会としては、高岡を訪れた方が、新高岡駅や高岡駅から目的地となる観光地にアクセスしやすくなるよう、情報発信などに取り組んでいる。観光地までの移動においては、2次交通が重要な役割を担っているものと考えており、2次交通の充実や分かりやすいダイヤ、乗り継ぎ利便性の向上などが進むと良いと考えている。

○金沢大学 中山教授

- ・公共交通の中で、路線バスをどのように位置付けるかは気になるポイントである。アンケート調査で、将来的な免許返納を考えている方については、返納後の移動手段として路線バスを選択したいという意見も多い状況。この結果を見ると路線バスについてはポテンシャルが高い面もあると思うので、計画策定の中でどのようにアプローチしていくかがカギになると思う。
- ・鉄道については、非常に便利だという意見が多い。ただ、自宅から駅まで、駅から目的地までのアクセスをどのように繋ぐかが重要な視点になる。駅までの距離が1km~1.5kmを超えてくるとアクセスが難しくなると思うので、そこをどうやって解消するかが課題。
- ・また、アンケートの満足度の項目では、例えば全体的に評価の高い万葉線について、駐車・駐輪場等の確保といった部分は評価が低くなっており、工夫の余地があるのではと感じている。公共交通のモードによって、必要な対策は異なる部分もあると思うのでエリアやモードでのクロス分析によって課題抽出ができると良いと思う。
- ・ビッグデータの分析については、今回は市内の公共交通による移動の分析ということであったが、観光分野での分析にも活用できると良いのではないかと。交通全体として捉える場合には、市域だけでなく、広域の利用もフォローできると良いと思うので、そういった点からは観光の移動分析などもポイントになってくると考える。

○事務局からの各委員のご意見に対する全体まとめ

- ・本市においては、鉄道や鉄軌道、路線バス等の交通機関を骨格的公共交通と位置付け、持続可能な運行と利便性の向上を基本線として施策を展開するとともに、これらの交通でカバーがで

きない部分について、市民協働型地域交通システムの導入を推進することで、市域全体の移動利便性向上につなげることとしており、これら全体を高岡型コミュニティ交通と位置付け、その確立に向けて取り組みを進めているところ。

- ・来年度の計画策定にあたっては、この高岡型コミュニティ交通を柱の1つとし、策定に向けてどのような肉付けをしていくかなど、委員の皆様から意見をいただきたいと考えている。
- ・また、公共交通の利用拡大のポイントとしては、今回の調査結果でもお示しした、20代～50代の通勤利用が低い点が大きなキーになると考えている。公共交通の学生利用については、一定の利用があるものの、学校によって目的が決まってしまう面もあり、さらなる利用拡大が見込まれない可能性がある。一方で、通勤における利用が低い部分を、公共交通利用に結びつけることで利用拡大につながるものと考えている。そのためには、どこがネックで、どこを改善していけば良いかを計画策定と併せて検討していきたい。
- ・観光分野については、今回の調査が市内の利用にポイントをおいていたが、今後、敦賀開業やインバウンドも含めて観光需要の拡大が見込まれる中で、2次交通の充実は重要となってくるものと考えている。市においても、令和5年度予算でも新たな事業を展開することとしており、引き続き、取り組みを推進していきたい。
- ・今回実施したアンケートに対し、深掘りをしていくことの重要性についてもご意見があった。今後、先ほどご説明した、地区カルテを委員の皆様にも共有させていただくとともに、地区ごとの分析についても取り組んでまいりたい。

【議事】（4）地域公共工津計画策定の流れ及び今年度の取り組み経過について
資料3に基づき事務局説明

【その他】 令和4年度協議会事業の国補助金活用（事後評価）について
参考資料2に基づき事務局説明

上記、議事を終了し閉会した。

以上